<教材>

単元：

高校>国語（言語文化）>第1学年>東京書籍 新編言語文化>古文編>4章 物語>伊勢物語>筒井筒

タイトル：

和歌を味わう指導の工夫
～和歌に込められた詠み手の心情と、聞き手にもたらす力を実感する～

キーワード：(5個以内)

和歌、歌物語、筒井筒、心情

0-1. 単元目標

単元目標： （単元終了 後に目指す 子供の姿）	和歌によって物語が展開する「歌物語」特有の作品世界を親しむ。
単元目標を 達成するた めの手立 て・工夫	恋愛をテーマにすることで、登場人物への共感を促し、作品に対する興味・関心を喚起する。 登場人物の心情の変化に着目した発問を行う。 グループワークにて、和歌を主体的に解釈させる。 和歌が心情・行動に及ぼす影響を考察させた上で、和歌の重要性を指摘する。

0-2. 本単元における本時の位置づけ（単元計画）

項目	時	授業目標・主たる学習活動・学習内容	備考
全文音読	1	目標：『伊勢物語』の文学的位置を理解した上で本文を読むことができる。 内容：『伊勢物語』や歌物語の文学的知識を身につける。 全文を音読する（歴史的仮名遣いや古文の音、リズムを体感する）。 登場人物を把握する。 全文を三つに場面分けする。	
第一部	2	目標：登場人物に共感し、古文に興味・関心が持てる。 内容：第一部の本文を読解する。 男と女の関係性が幼馴染から結婚相手へと変化する様子を理解する。 男と女の和歌に込められた心情をグループワークで読み取る。	
第二部	3	【本時】 目標：和歌には人の心情・行動に変化をもたらす力がある	

		ことが理解できる。 内容：第二部の本文を読解する。 男が高安の女の元へ通うようになった理由を理解する。 和歌に込められた妻の心情と、それを聞いた男の変化をグループワークで読み取る。	
第三部	4	目標：和歌が人々の心情と行動に与える影響を理解できる。 内容：第三部の本文を読解する。 高安の女の行動と、それを見た男の心情を読み取る。 高安の女の和歌に込められた心情を読み取る。 男が高安の女の元に通わなくなった理由をグループワークで考察する。 歌物語の特徴を振り返る。	

1. 授業目標：(一言で)

和歌には人の心情・行動に変化をもたらす力があることが理解できる。

2. 授業目標：(ある程度具体的に)

本時の範囲では、男が高安の女の元へ通い始めるものの、妻の和歌を聞くなり心情を変化させ、妻の元に帰ってくる。歌物語を読解する上で、和歌の力を理解することは不可欠である。本範囲は和歌の力が分かりやすく表現されており、歌物語を読み味わう端緒となる。

和歌の修辞に注意しながら巧みに描かれている妻の心情を読み取る。その上で、男の心情・行動が和歌前後でどのように変化したのかに注目する。生徒が女の和歌に込められた強い力を、実感を伴って理解できることが肝要である。

3. 本教材のポイント：(作成した教材のポイントを記述してください)

和歌が人間の心情・行動に大きな変化をもたらすほどの力を有しているということは、生徒にとって理解が難しい。そのため、女の和歌が持つ力を生徒自身が実感できるように、グループワークを設定している。地図を用いて、女の立場になって男の足取りを追うことで、難解な和歌読解を楽しんで取り組める。

生徒自身が興味・関心をもって読み込んでいく過程において、和歌の修辞や古語の知識をインプットできるように、問答を重ねている。

4. 授業デザイン：

活動	内容	*：指導上の留意点
導入	■前回の内容を確認しつつ、本時の導入を行う。 T：幼馴染の男女は大人になってどのような心情の変化が起きたか。 S：恋心が芽生えた。 T：二人は和歌をやり取りしている。このような和歌を何と云うか。 S：相聞歌 T：二人の「本意」とは何か。本文の言葉で答えると。 S：結婚したいという願い。本文箇所は、男の「この女をこそ得め」と女の「この男を」 ※幼馴染の男女に「恋心」が芽生え、「相聞歌」を経て、「結婚したいという願い」をかなえたことが再確認できればOK！ T：願いをかなえて結婚した二人だが、今回はどのような出来事が起こるか。女の和歌と、男の行動の変化に注目して読解をすること。	*発問に対し、口頭で答えさせる。 *宿題（今回範囲をノートに書き写す）を確認する。
展開 ①	男が高安の女の元へ通うようになった理由を理解する。 T：「年ごろ」とはどれくらいの長さをイメージするか。 S：正確な長さは分からないが、年単位など。 T：結婚生活が数年過ぎると何が起こりそうか。 S：目移り、心変わり、など。 T：時の経過だけではなく、二人に起きた環境の変化は何か。根拠となる本文箇所はどこか。 S：女の親が亡くなった。「親なく、たよりなくなるままに」 T：なぜ女の親が亡くなったらたよりなくなるのか。 S：妻の家が夫を養うことが出来なくなったから。 T：「もろともにいふかひなくてあらむやは」に関して、 ・「言ふかひなし」の単語を調べる ・（「あらむやは」を説明した上で）まとめてどう訳せるか。 ・誰の心情か S：「一緒にふがいない暮らしをしていられようか、いや、していられない」という男の心情 T：男が高安の女の元へ通うようになった理由は何か。二つ。 S：「時間の経過に伴う心変わり」と「女の親が亡くなり貧しくなったこと」	*発問に対し、口頭で答えさせる（正解を求める問いではなく、生徒のイメージを喚起させる問いのため、自由に発言させる）。 *「年ごろ」の意味を確認する。 *「たより」の意味を確認する。 *発問に対し、ペアで3分程度話し合い、何組かに発表をさせる。 *「妻問婚」を解説する。 *個人で2分程考え、指名して口頭で答えさせる。 *「いふかひなし」の意味を確認する。 *まとめの問い。口頭で答えさせる。

展 開 ②	■課題の検討② 和歌に込められた妻の心情と、それを聞いた男の変化を読み取る。 T：男の浮気を知った女に関して描写している箇所はどこか S：「悪しと思へる気色もなし」 T：「異心」とはどのような心か。 S：浮気心など T：男はなぜ前栽の中に隠れたのか。 S：女の浮気を確認するため。 ※男が「女が浮気しているから自分を責めないのだ」と思い、隠れて様子を見ることにした、という文脈を確認。 【女の和歌の鑑賞グループワーク】 ワーク① T：女の和歌を現代語訳すると。 ※「たつ」は（波が）立つと竜（田山）の掛詞である点は補助 ※「らむ」は文法書で確認させる。 S：風が吹くと沖の白波が立つのたつではないが、竜田山を夜中にあなたは一人で越えているのだろうか。 ワーク② T：和歌に込められた女の思いとは。 ステップ1:竜田山はどのような山であると想像するか。根拠は。 S:（風が吹くと立つ沖の白波のように）危険な山、など ステップ2：地図を見て、当時の河内までの道程をイメージする。 S:「徒歩で長時間を要する距離である」などの感想 ステップ3：夜中に一人で長い時間をかけて危険な山を超える男を思って詠む和歌にはどのような心情が込められると思うか。 S：夜中に一人で竜田山を越えて高安へ行く男の無事を祈る思い、など ※女が男の身を案じて和歌を詠んでいることを理解する。 T：男は女の歌を聞いて、どのような心情を抱き、どのような行動をとったか。 S：心情は「この上なく愛おしい」行動は「河内へ行かなくなった」	*発問に対し、口頭で答えさせる。 *「悪し」「気色」の意味を確認する。 *「前栽」の読みと意味、「いぬ」の意味を確認する。 *ワークシート配布 *ワーク①は5分で討論・シート記入。全グループ発表。 *グループ発表後、全グループの良い箇所を抽出して模範解答を作成して板書する。 *訳完成后、改めて掛詞と序詞の解説をする。 *ワーク②は8分で討論・シート記入。ステップ3のみ全グループ発表。 *龍田大社、高安、平城京（大和）及び竜田越えの経由地である亀の瀬をチェックさせる。 *発問に対し、口頭で答えさせる。 *「かなし」の意味を確認する。
ま と め	■本時の学習内容のまとめ T：女の和歌はどのような役割を果たしていたか。 S：男の心情と行動を変えた、など。 T：なぜ、女の和歌を聞いて男の心情と行動は変わったのか。	*発問に対し、口頭で答えさせる。

S：無事を祈る思い、深い愛情が込められていたから、など。 ※上記に加えて、女の和歌の技巧（掛詞や序詞など）がすぐれており、知性が感じられたことも理由に挙げられると補足する。 ※すぐれた和歌（思いが込められており、且つ技巧が凝らされている）は聞く人の心情・行動に変化をもたらす力がある点を再確認する。 T：女はなぜ和歌を詠む前に「いとよう化粧じて」いたのか。	*グループで3分話し合い、良い答えが出ていそうなグループを指名。 *答えのない発問。男がいることに気付いていた説、無事を祈るまじないの儀式説、高知の女との違いを際立たせるための描写説などがあることを紹介する。次回の高知の女の和歌へ含みを持たせる。

5. 作成者から一言：

和歌に関するグループワークに時間が割けるように、時間配分に留意が必要。グループ活動の際は机上巡視をする。結婚や恋愛を扱う教材のため、性的多様性に配慮した発言を心掛けること。

6. 参考文献：